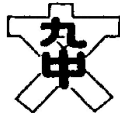


# 「文京九中 ここにあり」



平成29年度 第4号  
平成29年7月12日発行



文京区立第九中学校 校長 小 椋 孝  
 ■ TEL 03-3821-7178 ■ FAX 03-5685-4955  
 ■ HP <http://www.bunkyo-kyo.ed.jp/daikyuu-jh/>

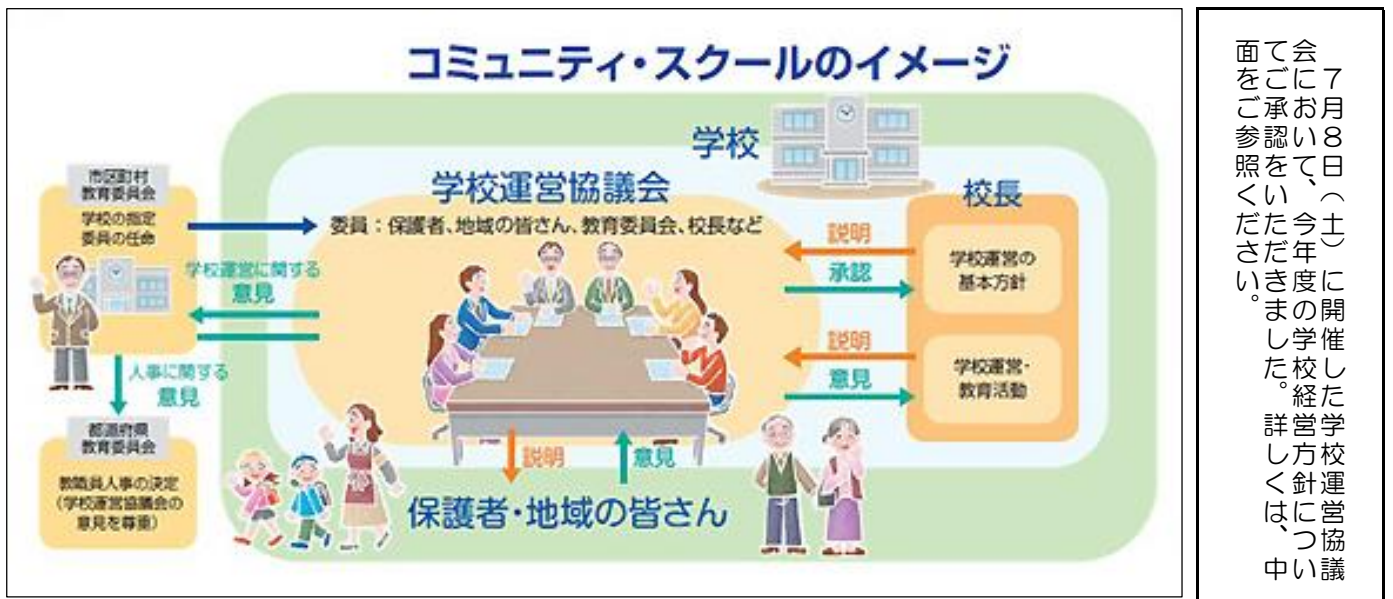
## 「コミュニティースクール（学校運営協議会制度）」新たな取組がスタート！

コミュニティ・スクールは、学校と保護者や地域の方々と共に知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え「地域と共にある学校づくり」を進める仕組みのことで、教育委員会が法律に基づく制度として学校や地域の実情に応じて学校運営協議会を置く学校を指定し、地域ならではの創意や工夫を生かした特色ある学校づくりをより一層推進していくことが期待できます。

学校運営協議会は、教育委員会が任命した委員（児童・生徒の保護者、地域住民、校長、学識経験者、その他教育委員会が認めた者）によって構成され、次の3点の大きな役割を有しています。

- ① 校長が作成する学校運営の基本方針の承認をすること
- ② 学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べるができること
- ③ 教職員の任用に関して、教育委員会に意見を述べるができること

本校では、これまでも保護者や地域の皆様と共に歩む学校として、「開かれた学校づくり」「地域のニーズに応える学校づくり」を進めてまいりましたが、創立70周年を契機として更なる学校活性化を目指すことを期して、コミュニティ・スクールの指定を受けることとしました。これまで以上に保護者や地域の皆様の意見の反映、学校運営への参画を通して、子どもたちのためを考えた共通の目標に向けて協働できる体制を構築し、「持続的に地域と共にある特色ある学校づくり」を進めてまいりたいと考えていますので、何とぞよろしくお願い申し上げます。



### 【第九中学校運営協議会委員】

[左から氏名（敬称略）、区分、役職・経歴等の順となっています。]

牛島 正廣	学識経験者	元東京都中学校長会会長	奥田 知子	地域関係者	学校支援地域本部コーディネーター
小林 誠	地域関係者	九友会会長	武智 弘英	PTA関係者	PTA顧問 保護司
大畑 雅一	地域関係者	駒込青少年健全育成会会長	八木 章雄	PTA関係者	PTA会長
戸野塚一枝	地域関係者	民生児童委員	中山 睦	PTA関係者	PTA副会長
三谷 規子	地域関係者	青少年委員	高野 敦子	PTA関係者	PTA副会長
鈴木幸太郎	地域関係者	昭和小学校PTA会長	小椋 孝	学校関係者	校長
富永 修紀	地域関係者	学校関係者評価委員			

[協議会には、事務局として必要に応じて学校関係者が入ります。]

### ＜お知らせ＞

保健体育科の滝澤寛通主任教諭は、体調を崩して休みがちになっていましたが、今般、主治医から8月10日までの休業、自宅療養を要するとの診断がございました。今後、2学期に向けて心身の状況を整え、本来の力を発揮できるように努めてまいりますので、ご理解をいただけますようお願い申し上げます。

## 「学校快適化工事」が始まります

文京区教育委員会では、築30年以上が経過した学校の内装劣化等に対応するため、学校快適化工事を実施しています。具体的には、普通教室や廊下・階段の内装工事、トイレの洋式化工事等を実施しますが、本校でも今年度から3年間の計画で快適化工事が実施されることになりました。

今年度は、普通教室の床面・壁面更新、ロッカーの新設、照明のLED化、連絡黒板のホワイトボード化に加えて、東側トイレの洋式化工事が行われます。教室の工事は、夏季休業期間中に終了しますが、東側トイレは4階の10月上旬から1階の11月下旬まで、順次完成予定となっています。また、12月中旬まで校庭の東側3分の1が工事資材・車両用スペースとなり、使用できなくなります。様々な面で不便をお掛けしますが、完成後の姿を楽しみにしつつ、ご理解、ご協力いただけますようお願い申し上げます。

なお、詳細については別途お知らせしますが、すでに工事が終了した第一中学校の写真を掲載しますので、参考までにご覧ください。



教室／前方・床面



教室／前扉と前方・床面



教室／ロッカー・照明(LED)



廊下及び廊下壁面



踊り場から階段



階段

## 九中の特色！「新聞への意見文」投稿 ～1学期掲載分を紹介します～

本校では、国語の発展的な学習として文章をまとめる力を育成することや若者の意見発表のよい機会として、新聞の投書欄への投稿を勧めています。今年度も、行事や学校生活への思い、日頃感じていることなどを投稿し、今年度1学期においてもすでに16編の生徒の意見文が新聞各紙に掲載されました。自分自身の考えを明確にして発信することは、自ら考え、判断し、行動する力の基盤となります。短い文章の中に、物事を正しくとらえた上で、感じたことや意見を表すことは、大人でも大変なことです。掲載された文は、これらのことをしっかりと自分自身の言葉で表しています。別紙にまとめて掲載しましたので、ぜひ保護者、地域の皆様にもご一読いただけましたらありがたいです。

## お知らせとお願い

本校では、自己管理で時計の所持を認めていますが、保健体育の授業時にある生徒の時計が見当たらなくなるということがありました。保健体育の授業中は、貴重品を集めることになっていましたが、更衣の際に更衣室に置いたままにしたところ、所在が分からなくなりました。

学校では、学年ごとの集会で呼び掛けをしましたが、残念ながらまだ時計は見つかっていません。今後も引き続き探すとともに、指導もしてまいります。ご家庭でも気に留めていただけますようお願い申し上げます。

## 九中の特色！「新聞への意見文」投稿 ～1学期掲載分の紹介～

※ 読売新聞「気流U-25」 平成29年5月22日（月）掲載

### 激務の配達 思いやりを

中学生 稲吉 ふう（13） 東京都文京区 [2年3組]

ニュースで宅配便の話題を目にする。指定時間に訪問しても留守ばかりで再配達が多くなり、配達する方が食事や休憩をとれないという。宅配の仕事の厳しい現状を知り、物を送る際には、もう少し注意が必要だと感じた。

今後は、自宅に送る時はお昼を避け、自分がいる時間を指定したい。知り合いに送る時は、家にいそうな時間を考え、配達の日を伝えるつもりだ。

配達に来てくれた方には「お疲れさまです」と声をかけたい。一人一人が相手を思いやるのが大切だと思う。

※ 産経新聞「ひこばえ倶楽部」 平成29年5月22日（月）掲載

### 科学と人間らしさの両立を

中学生 柴田 玲奈（14） 東京都文京区 [3年1組]

科学技術の進歩によって生活がますます便利になってきている。昔は大きくて動きも遅かったパソコンが、今では小さくて速いスマートフォンに取って代わられつつあり、一人1台情報機器を持つ時代である。

つまり、私たちの「普通」は大きく変化しているのだ。すぐに知りたい情報を得ることができるし、連絡も取りやすくなり、この点では変化はとても良いことだと思う。

ただ、勉強しているときや、山や海など自然の中で遊んでいるときに、ふと考えることがある。科学技術の進歩によって得たものは大きいけど、その代わりに失ってしまったものもあるのではないかと。

メールなどの浸透によって、人間らしい言葉で直接会って交わす会話が減り、スマホなどの小さな画面をずっと見ているようなことが果たして私たちの「普通」でいいのだろうか。

科学技術と人間らしさのバランスが大切だと思う。

※ 毎日新聞「みんなの広場」 平成29年5月28日（日）掲載

### 心肺蘇生講習に参加して

中学生 坂本 華奈（13） 東京都文京区 [2年2組]

先日、学校で「心肺蘇生」の講習を受けた。機械の使い方や人工呼吸法など私たちが講習で学んだことを実践すれば、人の命を守れるということを知り、命の大切さを改めて実感した。

ただ、私には疑問に思うことがあった。もし心肺蘇生が必要な人の近くに、心肺蘇生の方法を知っている人がいなかったらどうなるのだろう。よほど運がよくない限り、亡くなってしまはずだ。その場に心肺蘇生のできる人が一人でもいれば救われたはずの命が、救われないのだ。それはとても残念だと思う。

世の中に心肺蘇生の講習を受けたことのある人がどれだけいるのだろうか。でも心肺蘇生を必要とする事態はいつ起こるか分からない。講習を受けていなかっただけで、助かるはずの命も助からなくなってしまう。いざとなったら誰かがやってくれるからと他人に押しつけるのではなく、積極的に講習に参加し、守れる命を全力で守ろうと思える人が増えるのが私の望みだ。

※ 読売新聞「気流U-25」 平成29年6月13日（火）掲載

### 歴史背負う伝統芸能の魅力

中学生 篠田 高大（14） 東京都文京区 [2年3組]

数多くの伝統芸能が、後継者不足で失われつつある。後世に残すため、若者に関心を持ってもらうのが大切だと思う。

私は能の学習会に参加し、実際の能面を着用して演じさせてもらった。初めは右も左もおもしろさも全くわからなかったが、上達すると長年の歴史を背負っているという実感がわき、充実した学習会になった。

伝統芸能の魅力は、そこに至るまでの歴史にあると思う。その歴史と責任を感じられる機会を増やすことで、関心を持つ若者も増えるのではないかと。

※ 毎日新聞「みんなの広場」 平成29年4月19日（水）掲載

「時間管理」身につけたい

中学生 流石 朋香（13） 東京都文京区 [1年3組]

この前、私がお店でドリンクバーを頼んだとき、レシートには大人料金が書いてありました。そして、電車の料金もこの春から大人料金になりました。私は「小さな大人」になったのだと思います。しかし、まだ中学生なので、知識や経験が足りていません。だから私は中学校でさまざまなことを体験して、経験値を伸ばしたいと思っています。

中学校は毎日忙しいということを先生や先輩から聞きます。だから、私はこの1年間でスケジュールを管理する力を身につけたいです。部活に入ると勉強をする時間も減ってしまいます。そのためにテストの成績が下がることは避けたいので、計画を立てて行動できるようにします。

もう一つ頑張りたいことは、友達づくりです。今の中学校で新しくできた友達はまだいません。自分から話しかけることが苦手で、休み時間は一人でずっといます。なるべく自分から話しかけて、まずは同じ班の人から仲良くできればいいなと思っています。

※ 毎日新聞「みんなの広場」 平成29年5月18日（木）掲載

人の長所を見つける大切さ

中学生 野田 彩乃（14） 東京都文京区 [3年2組]

私には5歳の弟がいる。

その弟が先日一つの遊具を片付けずに他の遊具で遊び始め、母に注意された。その光景を見ていた父は、しょげながら片付けをする弟に「お片付けができて偉いぞ」と、声をかけた。

私はこのことに最初、違和感を覚えた。言われたことを実行するのは当たり前だと思ったからだ。注意された後ならば、なおさらだと思う。だが、父は片付ける弟を見てうれしそうに褒めた。私はふと、学校で行っている、みんなの長所を調べる「長所調べ」の一文を思い出した。「短所は見ようとしなくても目に飛び込んでくるが、長所は見ようと、聞こうとしないと見つけることはできない」というものだ。私はハッとした。まだ小さく、字も書けない弟は、もちろん私よりできることが少ない。そんな弟が一生懸命片付けをすることは、すごいことなのだとは私は再認識した。私は、弟の長所を見つけて褒めることで、弟を成長させようとした父の姿勢から学んだ。

※ 朝日新聞「若き世代」 平成29年5月19日（金）掲載

発車メロディー 全部聞けた

中学生 土屋 陽樹（13） 東京都文京区 [2年3組]

JR山手線駒込駅の発車メロディーは、なかなか最後まで鳴らない。そのため、「音鉄」の僕は旅の時間が余ると、何十分も駅に居座ることがある。

発車メロディーは、車掌さんがホームにあるスイッチを押して流す。1曲分流れると1コーラス。停車時間が長く、曲が短い新宿駅や東京駅では、3コーラス鳴る時も。でも、駒込駅のメロディーは「さくらさくら」で曲が長く、停車時間が短いので、最後まで鳴らないのだ。

そんな駒込駅で発車メロディーを録音しようと電車にカメラを構えたら、「全部とる？」と最後まで鳴らしてくれた車掌さんがいた。鉄道好きとして運転士を目指したいが、この車掌さんのように、僕のような鉄道好きに喜びを与えられるようになりたい。車掌さん、本当にありがとうございました。

※ 産経新聞「ひこばえ倶楽部」 平成29年6月5日（月）掲載

人に好かれる「3つの法則」

中学生 長谷川 七聖（13） 東京都文京区 [2年1組]

人に好かれたいか？ この問いにノーと答える人はまずいないだろう。だが、現実には多くの人が好かれているとは言いがたい。なぜか。好かれる方法を知らないからだと思う。

自分なりに人に好かれる法則を考えてみた。クラスに一人はいる人気者を観察すると、共通点があることに気づく。

①いつも笑っている②とにかく聞き上手である③だれとも平等に接する—の3点だ。この三つが無意識にできている人が人気者なのだろう。

だから、人気者ではなく、僕みたいにネットでしか親しい友達がいらない人たちは、この中のどれかが欠如しているか、すべてが足りないというわけだ。

でも、諦めてはいけない。どこかが欠けているのなら、補えばいいのだ。笑っていない人は笑う、友達の話をよく聞く、だれとでも分け隔てなく接する。そう心がければ、人気者への道は開かれる。

自分も頑張ってみよう。

※ 東京新聞「若者の声」 平成29年4月13日（木）掲載

いじめの傷は一生治らない

中学生 北川 涼人（13） 東京都文京区 [2年1組]

いじめを行えば簡単に人を壊すことができる。小学1年、2年生の時、自分はいじめをうけていた。さらに4年生の時には一番の友達だった人からもいじめをうけた。あの時ほど悲しかった日々はない。

今はもういじめはうけていない。しかし、自分の中にはまだ傷が残っている。いじめによる傷は一生治ることはないのだ。今がどれだけ楽しくても関係ない。だが、いじめた側は違う。人を傷つけるだけ傷つけ、すぐに忘れていく。

いじめがなくなることはないだろう。なぜなら大人もいじめをするからだ。でも、減らすことはできるはずだ。いじめはいけないことと考える人が、世の中に増えていけばいいと思う。

※ 東京新聞「ミラー」 平成29年6月8日（木）掲載

大縄跳び クラス一つに

中学生 星野 藍（12） 東京都文京区 [1年3組]

中学校に入学して初めての運動会が5月にあった。1年生がやる競技の中で、一つだけ私がやったことのないものがあった。それは大縄跳びだ。クラス31人全員が一斉に跳ぶもので、連続で成功させるには全員が心一つにする必要がある。私は、みんなにきちんと合わせることができるのか、とても不安だった。

最初のころは1回しか跳べなくて、悪い雰囲気になったことがあった。けれど、何回も練習していると10回、20回と続くようになり、ついに5分間で130回以上も跳べるようになった。連続で跳べたときには喜び合い、縄に引っ掛かってしまったときには励まし合う。そうしているうちにクラスの心は一つになっていった。

運動会当日。残念ながら、あまり良い記録を出すことができなかった。けれど、みんなで大縄跳びの練習をしたことで、記録以上に得たものがある。新しい友達ができただけのことだ。今まであまりしゃべったことがなかった子だったが、練習をしながら喜び合い、励まし合っているうちに、少しずつしゃべるようになったのだ。

大縄跳びをやったことで、私はみんなで協力することの大切さを学んだ。縄を回す人、跳ぶ人が、タイミングを合わせなければ跳ぶことできない。だから、心一つにした。クラスで協力することは今後、他のことをやる時にも当然、必要になるだろう。今回の運動会が成功したのは、みんなが成功させようと協力し、努力したからだと思える。協力することはとても大切なことだ。そのことを忘れず、今後もさまざまなことに取り組んでいきたい。

※ 毎日新聞「みんなの広場」 平成29年6月9日（金）掲載

運動会で支えてくれた友達

中学生 鎌田 吉成（12） 東京都文京区 [1年3組]

運動会本番。この日、僕が「いいなあ」と思った友達があります。

クラスが一番の課題だった大縄跳び。なかなかうまくいかなくて、みんながいらいらしそでした。そこに「ドンマイ！ドンマイ！次行こう」と、大きな声を張り上げる友達の姿がありました。その声が心の支えになりました。運動会前に、その友達は「みんなを応援の方でサポートしていきたいです」と言っていました。その友達は、両足を捻挫したため、運動会当日、組み体操以外の種目に出ることができませんでした。しかし、どの種目でも、大きな声でみんなを応援してくれていました。運動会が終わり、その友達は「勝ったクラスがあれば、負けたクラスもある。ほかのクラスの前では、あまり喜び過ぎないように」と言いました。私も彼のように、裏方でみんなを支えていく人になりたいと思いました。

※ 東京新聞「若者の声」 平成29年6月29日（木）掲載

みんなが団結 運動会大成功

中学生 村田 亮（12） 東京都文京区 [1年3組]

運動会が終わり、家に帰ったら父や母が「行進がきれいだったね」「組み体操かっこ良かったよ」などと話してくれました。僕はとてもうれしかったし、運動会でがんばって良かったなと思いました。

でも、全ての種目は自分一人の力だけでうまくいくものではありません。一人一人が指先まで意識してそろえることで、きれいになる行進。一致団結して形を作り上げる組み体操やソーラン節。審判や校庭整備など係の人たちの協力もあってこそ、運動会は成功したのだと思いました。

来年に向けて、僕はリーダーシップを持ち、1年を支えてあげられる2年生になりたいです。今回学んだ「協力」「相手への理解」なども生かして、次回の運動会も成功させたいです。

※ 毎日新聞「みんなの広場」 平成29年5月17日（水）掲載

「がんばろう日本」どこへ

中学生 藤橋 詩織（14） 東京都文京区 [3年3組]

「東北だったから良かった」。東日本大震災についての前復興相のこの言葉を聞いたとき私は、驚きや悲しみ、怒りが込み上げてきた。

私は、被災者ではない。ただ、東日本大震災が日本という国で起きたことは紛れもない事実だ。だとすれば、震災を経験しなくても、悲惨さを想像することはできるのではないだろうか。私も想像することしかできないが、被災者の方々は、とても怖くてつらい体験をされたと思う。それでも前を向いて、苦難に立ち向かおうとしている。だから、私たちも被災された方たちと一緒に、復興に向けてがんばろうとしているのだ。

大震災直後に掲げられた「がんばろう日本」という、あの言葉はいったい何だったのかと考えてしまった。被災された方々ばかりでなく、国民全員でがんばろうという気持ちは今も変わりはない。

※ 東京新聞「若者の声」 平成29年5月18日（木）掲載

知識を蓄えて税に関心持つ

中学生 和田 紫陽（14） 東京都文京区 [3年2組]

大型連休中、茨城の祖母の家に行った。そこで、神奈川に住む伯母と久しぶりに会った。「東京都民じゃないけど、小池さんのことが気になるんだよね」と言う伯母。小池百合子都知事の行動力や発言力は、みんなの関心を引きつけるのだと知った。それから、築地市場の豊洲移転の話になった。伯母は「東京都はあんな大金を使えるからすごいね。ウチの方でやったら大変なことだよ」と言った。

確かに、全て税金だ。消費税以外の税金を払うことがない私は、身近な話とは感じていなかった。これから少しずつ知識を蓄えて、税金の使い道に関心を持つとうと思う。選挙権を得る4年後には、実行力がある人を選べる都民でありたい。

※ 東京新聞「若者の声」 平成29年6月1日（木）掲載

立ち止まって平和を考えて

中学生 永島 萌香（14） 東京都文京区 [3年1組]

最近、小学2年生の弟が「ミサイル」という言葉を覚えた。ニュースになっている北朝鮮の発射のせいだろう。

人間は二度にわたって大きな戦争を起こしている。勝っても、手に入れられるのはお金だけなのに。その金額も、戦争で犠牲になった人たちの命よりはるかに安いというのに。なぜ戦争を起こすのだろう。

戦争は、どんな理由でもしてはいけないと思う。今まで、どこの国も同じ考えだと信じてきたが、近いうちに第三の悲劇が起きそうで、怖い。一度立ち止まって、考えることが必要だ。ミサイルを造る技術を、人を助けるために使ってほしい。一つの国を否定するのではなく、地球全体で考えて、時間をかけて改善していくことが大切だと思う。

※ 東京新聞「若者の声」 平成29年6月22日（木）掲載

政治家の言動 誠実さ忘れず

中学生 今村 悠人（14） 東京都文京区 [2年3組]

最近「大統領の陰謀」という映画を見た。ウォーターゲート事件という、アメリカ史上最大のスキャンダルを題材にした映画だ。

関わった政治家が、「われわれは一切関係ない」「報道は事実無根だ」とか「適切な判断、対応である」と言う場面があった。最近の日本の政治家の発言によく似ていると思った。自分たちにとって都合の悪い事を国民の目からそらすようにしているのではないかと。

政府内で大臣の失言も目立っている。それによって、多くの人が政治家に対する不信感を抱いている。政治家が私利を求めているのは絶対に善い政治はできない。政治は国民のためのものであると肝に銘じ、誠実に物事に当たってほしい。

※ 16編を4ページに収めるという紙面構成の都合により、掲載順ではなく順不同とさせていただきます。何とぞご了承ください。

